

梅毒患者 高止まり

全国で報告数が増えている梅毒患者が、道内でも2022年以降、高水準で推移している。専門家はコロナ禍後に人流が回復し、東京など大都市の感染者が来道して感染を広げた可能性を指摘する。患者の6〜7割を占める札幌市は今年から自宅での感染の有無を調べられる「郵送検査」を導入するなど、早期発見と感染防止を呼びかけている。(寺坂百絵)

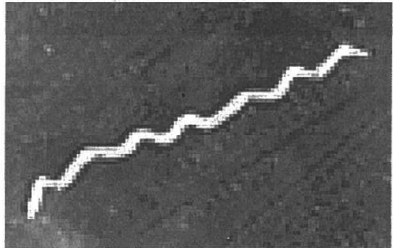
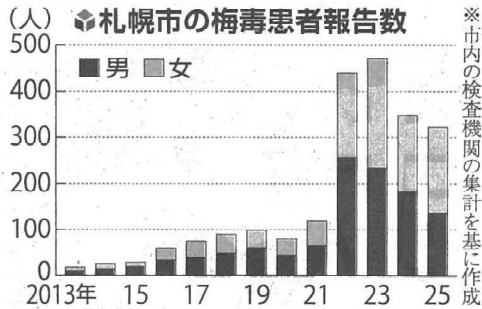
6〜7割が札幌

大都市から来道拡大が

市、「郵送検査」今月導入

梅毒の症状

I期(感染から3週間程度)	陰部、唇、口の中、肛門などにしこり・できものができる
II期(2〜3か月程度)	発熱、頭痛、うっすらと赤い発疹「バラ疹」などができる
晩期(数年以上)	心臓、血管、脳などに病変。心不全やまひなど重篤な疾患を引き起こすことも
母子感染	妊婦が感染している場合、生後子どもに難聴や知的障害が出るリスクが高まる



■症状3段階
梅毒は細菌「梅毒トレポネーマ」が体内に侵入することによって感染する。症状は3段階に分かれ、I期(感染から3週間程度)は陰部や唇、口内、肛門などにしこりやできものができる。II期(2〜3か月程度)は発熱や頭痛、「バラ疹」という赤い発疹などが生じ、晩期(数年以上)になると全身に回った細菌が心臓や血管、脳などに悪影響を及ぼし、心不全やまひなど重篤な疾患を引き起こすことも

「梅毒トレポネーマ」が体内に侵入することによって感染する。症状は3段階に分かれ、I期(感染から3週間程度)は陰部や唇、口内、肛門などにしこりやできものができる。II期(2〜3か月程度)は発熱や頭痛、「バラ疹」という赤い発疹などが生じ、晩期(数年以上)になると全身に回った細菌が心臓や血管、脳などに悪影響を及ぼし、心不全やまひなど重篤な疾患を引き起こすことも

性風俗店経路か

札幌市保健所によると、保健所への患者の報告数は21年が119人だったが、22年は439人と約3.7倍に上り、23年は470人と過去最多になった。24年以降は減少傾向だが、高止まりが続く。

25年の報告数は322人。内訳をみると、男性が135人、女性が187人と上回る。年代別では、男性は最多が40歳代で約3割を占めたが、女性では20歳代で約6割に上った。患者全体では、約3割が「6か月以内に性風俗店での従事・利用歴がある」と答え、性風俗店が主な感染経路と考えられる。

全道も同様の傾向だ。道感染症対策課によると、23年は過去最多の679人で、札幌市以外では旭川市や帯広市などが多い。

無症状患者増

梅毒に詳しい「ていね駅前泌尿器科」(札幌市手稲区)の砂押研一院長は「コロナ禍後、東京や大阪など大都市から感染者が札幌市などを訪れ、感染が広がった可能性がある」と指摘する。来院する梅毒患者の約半数は、札幌市内の性風俗店を利用したことがあるという。

さらに砂押院長は、25年頃から無症状の男性患者が増えていると説明。「気づかぬうちに進行し、重篤な症状になることがある。性風俗店などを一度でも利用した人は、検査を受けてほしい」と訴える。

匿名で無料検査も

札幌市では、各区の保健センターなどで感染の有無を調べる無料の検査を匿名で受けることができる。過去に感染歴のない人が対象で、事前に電話などで予約する。

また市保健所は15日から、自宅でも梅毒とヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査ができる「郵送検査」を始めた。ウェブ上で申し込みと自宅などに検査キットが届き、血液を採取して返送する。検査結果もウェブ上で確認できる。検査は郵送料(550円)のみ自己負担で、クレジットカードなどで支払う。詳細は市のサイト「QRコード」で紹介している。

郵送検査は対面での検査

のハードルが高いと感じる人や日程調整が難しい人に受検してもらうのが狙いだ。市保健所感染症総合対策課の古沢弥医師は「梅毒は何度でもかかる。適切な治療を受けなければ治るので、感染を広げないためにも早期受診、早期治療を心がけてほしい」と呼びかける。